

移動支援のあり方の検討に関する説明会におけるご意見、ご質問

[地域説明会 参加人数 66 名]

平成 31 年 2 月 19 日 (火曜日)	南町地区会館	参加人数 22 名
平成 31 年 2 月 20 日 (水曜日)	柳沢第三市民集会所	参加人数 21 名
平成 31 年 2 月 21 日 (木曜日)	柳沢第三市民集会所	参加人数 13 名
平成 31 年 2 月 22 日 (金曜日)	南町地区会館	参加人数 10 名

[目 次]

運行方法 P 1
利用対象者・利用者登録 P 3
乗降場所 P 5
利用方法 P 7
運賃 P 9
実証実験の結果等 P 10
周知方法 P 11
その他 P 12

【運行方法】

問：利用時間の10時から正午、14時から16時の2時間の間、タクシーが行ったり来たりするというのでしょうか。

答：バスのように決められた時間に到着するのではなく、運行時間内にタクシーが乗車場所を行ったり来たりする方法になります。

問：発車時刻が決まっていますが、乗車場所でお客さんが来るまで待機しているのでしょうか。また、発車するタイミングについて教えてください。

答：乗車場所に車両が到着し、お待ちの方がいらっしゃれば乗車して、すぐに出発するため、4名の利用者が乗車するまで待つわけではありません。また、目的地までは15分程度かかると想定しているため、待ち時間は概ね15分程度と考えています。

今回の移動支援の実証実験については、タクシーの利点を活かし、必ずルート上を通行する必要はないと考えており、例えば、踏切による渋滞が発生しているのであれば、脇道を通行して目的地まで運行することができると考えています。

問：大勢の人が待っている場合、乗れない人は次のタクシーを待つのでしょうか。

答：道路状況にもよりますが、15分程度の間隔で次のタクシーがくると考えています。

それでも大勢の方が待つような状況であれば、追加の車両を運行できるかどうかを含めて、今後タクシー事業者と調整したいと考えています。

問：それぞれのルートの1便目はどこからスタートするのでしょうか。

答：ご協力いただくタクシー事業者がまだ決定していないため今後の調整となりますが、スタート地点については、南町・向台町ルートが南町地区会館と田無庁舎、柳沢地域ルートは新柳沢団地内公園と田無庁舎、西武柳沢駅ルートは柳沢第三市民集会所を予定しています。

問：仮に15分に1便の運行をするのであれば、運行時刻を提示したほうがいいのではないのでしょうか。

答：乗降場所や時間を決めて運行する方法は、バス方式となり、移動支援の対象地内の道路の幅が狭く、運行の許可がとれません。そのため、タクシー方式を選定し一定の時間、地域内のルートを常時運行する方式をご提案しました。

問：普通のタクシーと見分けはつくのでしょうか。

答：車両の両側のドアにマグネットシートを貼り付け、普通のタクシーと見分けがつくようにする予定です。

問：運行に関するアプリのようなものはあるのでしょうか。

答：アプリが使えれば利便性が向上すると考えますが、高齢の方のご利用を考えた場合、その方法が本当によいかどうかについては、勉強会でも話し合われました。今回実験を行って、アプリの利用について検討する必要があるかは考えたいと思います。

問：ルートの設定はどのようにして決めたのでしょうか。

答：タクシー事業者や交通管理者である警察のご意見を踏まえ、できる限り安全に通行できる道路について検討した結果、今回のルートを設定しました。

【利用対象者・利用者登録】

問：今回なぜこの対象者に限定しているのでしょうか。

答：移動支援のあり方を考える勉強会においては、高齢の方、障害をお持ちの方、妊娠中の方の他に、怪我をされている方など、一時的に移動に制約がある方についても対象者として検討してきました。

一般のタクシー車両を利用するため、乗り切れないといったことも考えられるため、今回の実証実験については、対象者を限定させていただきました。実証実験の結果、利用する方が多い場合には、車両を大きくするなどの検討も必要であると考えています。

問：対象者は障害をお持ちの方や高齢者ばかりでなく、一般の方も含めて利用できるのでしょうか。

答：利用対象者については、65歳以上の方、妊娠中の方、世帯に3歳未満のお子さんがいらっしゃる方、またその付き添いの方もご利用いただけます。

移動支援のあり方を考える勉強会においても対象者は限定しない方が、事業が成り立ちやすいことや通勤通学者を対象とするかの議論がありましたが、実証実験に関しては、車両や時間等が限られており、対象者が多くなると利用できなくなることを想定したため、今回は対象者を限定しました。

本格運行の際は、通勤通学者は除き、できる限り地域内で移動に困っている方を中心に移動支援の取組みを進めていきたいと考えています。

問：障害者は利用できないのでしょうか。

答：障害をお持ちの方についても、利用対象者であれば、利用者カードを発行します。ただし、セダン型の車両を予定しており、車いすに載ったまま乗車することは難しいと考えているため、折りたたんで乗車いただくことが可能であればご利用いただけると考えています。

問：利用者数はどの程度予測していますか。

答：地域内から駅へ向かう片道で最大限乗車できる人数で計算した場合、南町・向台町ルートと柳沢地域ルートはそれぞれ1日あたり64名程度^{※1}であり、西武柳沢駅ルートは1日あたり48名程度^{※2}を予想しています。これらは、道路状況による便数の減少や仮に利用者が1名でも運行するため、状況により変動するものと考えます。

※1：1時間4本×2時間×4名=32名×2回（午前・午後）=64名（1日あたり）

※2：1時間3本×2時間×4名=24名×2回（午前・午後）=48名（1日あたり）

問：利用者カードの登録方法はどのようにしたらいいのでしょうか。

答：事前登録は、本年5月に予定していますが、その際には地域内の公共施設等に職員を派

遣し、その場で利用者カードを発行できるようにしたいと考えています。ただ、実証実験が始まった6月以降については、職員の派遣は難しいと考えていますので、庁舎に来ていただくか、郵送でのお申込みをお願いする予定です。なお、利用者カードについては、実証実験中の3ヶ月間のみ有効です。

問：利用者カードの発行枚数が少ない場合、実証実験の中止などはあるのでしょうか。

答：利用登録者が少ない場合は、地域に対し、さらに移動支援の周知を行い、皆様にご利用いただけるよう努めたいと考えています。

【乗降場所】

問：田無駅周辺は、南口より北口の方のニーズがあると思いますが、なぜ田無庁舎に乗降場所をしたのでしょうか。

答：今回、新たな交通事業を導入する中で、安全に乗降できる場所として、まず、駅前広場の利用を検討しましたが、田無駅北口は既に路線バス、タクシーやはなバスなどが乗り入れており、十分なスペースが確保できないと考えています。

そのため、駅周辺の公共施設等の敷地で検討した結果、南口の田無庁舎を乗降場所とすることにしました。

なお、タクシーの利点を活かし、できる限り駅に近い場所での降車をさせていただきたいと考え、降車可能範囲を市役所通りに設定しました。

問：田無駅北口ロータリー内の場所がないかもしれませんが、移動支援は運行時間が限られ、週に2回しか運行しないのでタクシー乗り場やはなバス停留所を利用できないのでしょうか。

答：地域内から田無駅に向かうルートは週に4日あり、一般の方からすると移動支援の車両とタクシー車両の区別ができず、事業に支障が出るとタクシー事業者からご意見をいただいています。また、はなバスの停留所も時間あたり3便程度が発着しているため、空いている時間帯に発着することは難しいと考えています。

問：田無駅北口のタクシーの乗り場を利用できないのでしょうか。

答：タクシー事業者から、タクシー乗り場を利用するには一般のタクシー利用者からすると移動支援の車両にマグネットシートを貼ったとしても区別が難しいとのご意見をいただいております。なお、田無駅北口を拠点としているタクシー事業者は現在、三幸自動車、田無交通と西武ハイヤーの3社であり、同じ乗降場を共同で使用しているため、移動支援の車両を優先にして使用することは難しいと考えています。

問：リヴィンの地下駐車場を借りることはできないのでしょうか。

答：リヴィンは、市の再開発事業で建設しましたが、建物は市の所有ではありません。また、リヴィンに行くことが皆様にとって大きな目的のひとつであると思いますが、周辺の商業施設などへの影響なども考える必要があり、特定の民間の商業施設に市民の方を直接お連れするようなことは、市の事業としては難しいです。

問：田無警察を目的地にしてもらえると、佐々病院が利用できるのではないのでしょうか。また、ルートの途中であればどこで停まってもよいという方法はどうでしょうか。

答：田無警察の付近については今回検討していません。平成29年度に実施したアンケート調査で買物にお困りになっている方が一番多く、次いで通院でお困りになっている方も多くと把握しています。

今回はその中でもご意見が多かった買物について支援をする必要があると考えています。ただ、買物に限ったことではなく、この移動支援を使って駅の近くまで行っていただければ、多少歩くことにはなりますが、この地域から少しでも駅方面へのお出かけが楽になってほしいと思っています。

降車可能範囲の設定については、交通管理者である警察やタクシー事業者のご意見を踏まえ、今回はご提案させていただいています。

なお、実証実験の結果を検証し、今後他の場所の検討も必要であると考えています。

【利用方法】

問：運行時間に乗車場所で待っていれば、タクシーがくるのでしょうか。

答：運行時間内であれば、タクシーが乗車場所を行ったりきたりするので、決められた乗車場所でお待ちください。なお、基本的にはお並びいただいた順番でご利用いただく予定です。

問：今回の移動支援にシルバーカーを載せる余裕はありますか。また、複数の人がシルバーカーを持っている場合どうなりますか。

答：タクシーのトランクが利用できますが、入れるものの大きさにもよると考えています。ただ、4人が大きな荷物を持っている状況であると一度にご利用いただくのは難しいと考えます。

どのようなご利用方法をされるのかも含めて、この実証実験で検証します。もしそのようなご利用が多いということであれば、例えば車を大きくするといった検討などを今後行う必要があると考えます。実証実験中は、色々な制限もあり、地域の方にご不便をおかけすることもあります。この結果を踏まえてどのようなことができるか、改めて皆さんと考えたいと思っています。

また、ご利用にあたっては、顔見知りの地域の方同士の利用を想定しているので、譲り合って一緒にご利用していただきたいと考えています。

問：ベビーカーや車椅子での乗車は可能でしょうか。

答：ベビーカーやシルバーカーは基本的にトランクに入れてもらうことを想定しています。たくさん荷物をお持ちの方もいると思うので、地域の方で協力し合って乗っていただきたいと思います。ただ、使用する車両がセダン型になると考えているので、車椅子ではそのままお乗りいただけないと考えていますが、折りたたんでご乗車いただくことは可能であると思います。

ご協力いただくタクシー事業者が決まり次第、今回いただいたご意見を踏まえ、細かな運用方法については今後調整したいと考えています。

問：運転手が乗るときに手伝いをしてくれるとうれしい。介護の資格を持っているような人も決まった人が運転してくれるのでしょうか。

答：市内に4つのタクシー事業者があり、現在、実証実験にご協力いただけるか、意向確認をしています。どの事業者が協力していただくかは今後決定しますが、利用される方が65歳以上など、移動に制約がある方を対象とするため、できる限りサポートができる運転手にしていただくよう市からも要望はしたいと考えています。

問：実証実験の最初のころは、市の職員が乗車場所についてくれるのでしょうか。

答：市の職員が付き添うことは予定していません。地域のコミュニケーション力にも期待し

ています。顔見知りの方同士で利用することが多いと考えていますので、乗車の際の調整なども地域でお願いできたらよいと考えています。

【運賃等】

問：300 円は高いと思いますが、運賃はどのように決めたのでしょうか。

答：既存のバス、タクシー事業者への影響に十分配慮する必要があることから、地域内から田無駅方面へ向かうタクシー料金を基に、はなバスにおける公費負担の状況等を考慮して、運賃を設定しました。運賃については、色々なご意見があるかと思いますが、まずはこの値段で実証実験をさせていただき、その結果を踏まえ、どのような設定が適切か今後検討したいと思います。なお、西武柳沢駅ルートは距離が短いため、他の2つのルートより安く設定しました。

問：柳沢第三市民集会所から田無までのタクシーの支払いは1,000円もかからず利用できるため、設定料金が高いと思います。仮に4名で利用すれば、合計1,200円の料金を支払うことになるため、利用者が利用料金を高価と感じれば利用が少なくなり、ニーズがないと判断されてしまうことを懸念しています。

答：タクシーを利用する場合、4名募れば一名あたりの料金は移動支援の運賃より安く移動できる場合があります。

移動支援のあり方を考える勉強会においても、複数名が集まりタクシーを利用した際に補助することを検討しましたが、乗りたい場所にタクシーを手配する場合、予約が必要となり、この「予約の手間」が利用者にとって負担であるとのご意見をいただきました。

そのため、今回の実証実験では、決まった時間に乗車場所で待てば必ず乗車できる運行方法を提案させていただきました。

問：はなバスに使われている税金（補助金）もこの事業と同じくらいなのでしょうか。

答：はなバスでは現在、全部のルート合わせて1億円を越えるくらいの補助金^{※3}を支出しています。一人あたりの利用者に対して大体100円くらいの補助^{※4}をしていることとなります。

時間でタクシーを貸切る方法を考えており、午前と午後2時間ずつ、3つのルートで5台のタクシーを3ヵ月間借りた場合に、経費は大体430万円くらいになります。皆さんに乗っていただいた運賃を差し引いた額を補助金として支出することになるので、たくさんご利用いただければその分補助金も少なくなると考えていますが、利用状況によっては、一人あたりの利用者に対する補助金のはなバスより高くなってしまう可能性もあります。

※3：はなバス運行補助金（平成29年度決算） 119,065,160円

※4：一人あたりの公費負担額（平成29年度決算） 94円（年間利用者1,275,337人）

【実証実験の結果等】

問：利用者が多かった場合に、使用台数を増やすといったことは考えられるのでしょうか。

答：今回、ご提案させていただく移動手法について、地域でどの程度のニーズがあるか、またどのような課題があるかを検証するために実証実験を行ないます。今後、この地域で利用が多いようであれば、車両を大きくしたり、台数を多くしたりするなどの検討も必要であると考えています。

問：実証実験の結果によって今後の移動支援がどのようになるのでしょうか。また、それを判断する基準はあるのでしょうか。

答：実証実験は運行方法等の内容について検証し、利用ニーズや課題などを確認させていただきます。利用が極端に少ない場合は根本的な変更について検討が必要と考えますが、変更する判断基準として具体的な乗車人数等は現時点で決めていません。

問：6月の実証実験後の予定を教えてください。

答：この地域は、商店が少なくなってきたり、買物をするための移動の手段についてのご意見をいただくことが多く、何かしらの移動支援を検討する必要があると考えています。実証実験の結果を検証し、この地域にとってよりよい移動支援策となるよう、皆様と一緒に検討していきたいと考えています。

問：実証実験の結果をどのように集約するのでしょうか。

答：この実証実験後には、利用登録者に対してアンケート調査を実施し、利用しない理由や利用しなくなった理由等についても把握させていただき、この地域の移動の不便さを解消するために今後どのような方法が皆様のニーズに合うのかを検討していく予定です。その他、実証実験中のご意見についても都市計画課へお寄せいただきたいと思います。

問：利用した際にすぐにアンケートが書けるとよい。

答：ご意見を参考に、アンケートの方法などは今後検討します。

問：今回の運行方法でよいのかわかりません。

答：この地域は道路の幅が狭いため、バス方式ではなく、タクシーを活用した方法であれば運行が可能であると考えています。今回の実証実験については、移動支援のあり方を考える勉強会を行ってきた中で、地域の方からのご意見を踏まえ、ご提案させていただいています。

なお、実証実験を行う中で新たな課題があれば解決し、移動支援の方法として最終的にどのように行うのがよいのかを決定していきたいと考えています。

【周知方法】

問：周知については市報だけですか。ホームページは見ません。

答：今回の説明会までのご案内については、自治会や町内会の他に職員が直接資料を投函しています。全世帯にお届けはできていませんが、次回の事前登録をご案内するときには、市報に折り込んでこの地域全体にお届けする予定です。

【その他】

問：勉強会の内容について知りたい。特に対象者や行き先等についてどのようにして決まったのでしょうか。

答：今回の移動支援の行き先については、平成 29 年度に実施したアンケート調査の結果を踏まえながら設定しました。また、実証実験は車両や運行時間が限られており、利用者が多くなると利用できなくなることが予想されるため、対象者については、移動に制約のある方を念頭に置き、今回の対象者とさせていただきました。

勉強会の内容については、アンケート調査の内容を踏まえながら、対象地域内から合計 9 名の住民の方が委員となり、それぞれの地域の方の移動実態や地域毎に抱える課題について様々なご意見をいただきました。移動以外に関して、例えば、地域のコミュニティや移動販売等についてもご意見をいただきました。

問：はなバスを伏見通りから UR 内を経由し伏見通りに戻るルートは検討したのでしょうか。

答：はなバスは通常、公道を走行するルートで設定しています。団地内は通路であるため、難しいと考えています。

問：武蔵野市のムーバスは狭い道路を走行しているように思いますが、この地域内でもはなバスの運行はできるのではないのでしょうか。また、バスを運行する際に武蔵野市と条件が異なるのでしょうか。

答：決まった時間に決まった停留所を経由するバスのような運行方法では、この地域の道路の幅が狭いため、運行の許可がとれません。なお、バスの運行に関する条件は武蔵野市も同様です。

問：デイサービスで使われている車を空いている時間に使うことはできないのでしょうか。

答：デイサービスの車の利用については、勉強会でもお話しはいただきましたが、今回の実証実験に合わせて行うまでには準備期間が足りませんでした。空き時間の活用については、今回の実験とは別に検討する必要があると考えています。

問：周辺自治体が運行している公共交通について研究はしたのでしょうか。

答：小平市のぶるべー号、東久留米市のデマンドタクシーや様々な自治体の事例を参考にしました。

問：都市計画課に話しに行きたいが大丈夫でしょうか。

答：保谷庁舎までお越しいただいてもよいですし、お出かけ支援通信に記載のある都市計画課にお電話をいただいても大丈夫です。